

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 4393000072 | | |
| 法人名 | 医療法人 新清会 | | |
| 事業所名 | グループホーム 千花 | | |
| 所在地 | 熊本県葦北郡芦北町大字芦北2592-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年2月22日 | 評価結果市町村受理日 | 令和3年4月28日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構 | | |
| 所在地 | 熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205 | | |
| 訪問調査日 | 令和3年3月17日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

8年目となる千花ですが、7月豪雨で甚大な被害に遭い10月末まで避難生活を行っていました。全国の方々から多大なる支援を頂き、11月に千花を再開する事ができました。現在は新型コロナウイルスの流行により地域の方々との交流やご家族様との面会も規制しております。が、明るく元気なスタッフが笑顔で対応し、いつも笑い声が響くホームです。室内は完全バリアフリー、裏庭には畑があり季節の花や野菜を植えて収穫を楽しみにしています。お天気の良い日には裏庭に出て日向ぼっこしたり、外にてお茶会を楽しんでいます。食事は新鮮な食材を買い出しに行き、職員が毎日メニューを考え、手作りで提供しています。職員は20代～60代で個々の意見を出し合い日々支援させて頂いてます。千花の理念の基、思いに気付き寄り添い笑顔の花を咲かせ穏やかな日々を送って頂ける様取り組んでい

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

令和2年7月4日、芦北地方を襲った未曾有の豪雨災害は、入居者と職員の穏やかな日常を一変させている。ホーム内に水が押し寄せ中、職員の機転で強固な食台などに入居者を避難させた後、全員がレスキュー隊により無事救助されている。4か月に渡る母体での避難生活を終え、修復の整ったホームに戻られた入居者の表情が聞き取りからも想像され、現在の穏やかな日々繋ぎがっている。重要書類なども水の勢いに消失し、また、一からのスタートだとして苦難を乗り越えたいとする職員の姿に頭の下がる思いである。野菜作りや花植えを再開したことで、更に入居者の表情も豊かになり、自分たちが収穫した野菜が食卓に登ることで、食への意識も上がっている。笑顔溢れるホームの再スタートに大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | タイムカードの横に理念を貼り出勤時に黙読している。また千花での理念も作り全職員で共有し実践に繋げるよう努めている。 | 昨年7月芦北地方を襲った豪雨災害で、入居者の生死にかかわる甚大な被害に合い、職員の一瞬の機転が全員の命を救い、あらためて命の尊さを感じている。避難先では努めて職員が笑って過ごすことで入居者の不安を和らげ、“笑顔をたやさず”入居者と向き合い、少しずつ元の生活を取り戻している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 職員は近隣の方への挨拶は常時心掛けている。避難訓練などお手伝いを呼びかけている。6月に行われる1日一汗運動には参加するようにしている。 | 水害によりこれまでの生活が一変したことで、管理者はまた、一からのスタートであるとし、地域との関係継続に力を入れたいとしている。近隣者との挨拶、一日一汗運動での清掃活動、避難訓練への声掛けなど、先ずは出来る事から始める事としている。 | 今年度は町主催の行事も殆どが中止となっており、文化祭などの再開時には入居者との作品出品が期待される。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 町主催の文化祭や七夕祭りには作品を出品していたが、新型コロナウイルスの流行に伴い中止となり今は難しくなっている。 | / | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | グループホームあしきたと年3回合同会議を行っている。新型コロナウイルスの流行に伴いR2年3月の推進会議から書面での会議を行っている。 | 地域にある同法人のグループホームと年3回は合同で開催し、互いの現状を共有してホーム運営に反映させている。今年度はコロナ感染症や豪雨災害により書面審議としているが、管理者は出来る限り資料を手渡しし、顔を合わせて直接意見を聞くように努めている。通常であれば行政の他、消防署長や地域代表者、家族等が参加し、地域交流促進のためにホームが取り組むべき課題などについても意見が得られている。 | 資料については家族へも送付することで、更にホームの現状へ理解や意見が寄せられるものと思われる。また、身体拘束などの研修報告も併せて発信することが期待される。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 役場・消防署に出向き疑問点等の相談を行っている。日頃から何気ない会話をし、交流を図っている。 | 行政や消防署、警察署など、町の主要な機関が点在する地域にあって、書類提出や相談事に直接訪れることで友好的関係性が出来ている。昨年の豪雨災害時には救助隊をはじめ行政、消防関係、ボランティアなど全ての人々に感謝し、風化させることなくこれまで以上にホーム運営に尽力したいとしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束に関する勉強会を法人の中で実施し職員全員が正しく理解し実践に取り組んでいる。玄関居室等の施錠についても身体拘束であると認識したうえで安全確保の為に施錠を行っている。スピーチロックに関してもお互いが声掛けあって注意している。 | 職員は定期的開催される法人の“身体拘束廃止委員会”に参加している。今年度、ホームでは改まった勉強会はしていないが、テレビなどの実例や日々の気づきを常に話し合う時間を持っている。法人研修では「言葉の使い方」をテーマに、言葉の掛け方や、語尾の強弱、上げ下げなど入居者への尊厳について改めて共有する機会をもっている。 | 玄関などの施錠については、国道に面していることなどから、安全確保のためではあるが、今後も引き続き運営推進会議で定期的に報告することも検討願いたい。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待のニュースなど情報を共有し、意見を出し合い同じような問題が起きないように職員全員が意識を持って取り組んでいる。職員同士が声掛けながら虐待防止に努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在は成年後見制度対象者はおられないが、以前学んだ知識や情報は職員間で共有している。今後も勉強会を実施する必要があると思われる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 約款書の説明利用料金、重度化や看取りについて、医療連携体制、起こり得るリスクなど詳しく説明している。報酬加算料金改定時には文書を発行し個々に詳しく説明している。経済的不安に対しては個別にて対応相談に乗っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者様との毎日の会話のなかで意見要望不満等聴くようにしている。内容を必ず職員間で話し合い運営に反映させている。家族の面会時には必ず意見や要望を聴くようにしている。要望は職員間で共有し運営に反映させている。 | 入居者の中には自身の様々な思いを口にされる方もおられ、職員は傍に寄り添い時間をかけて話を聞くようにしている。現在面会は互いが居室と庭からの窓越し面会としており、入居間もない方が家族と対面される様子が確認された。職員は千花だよりや口頭で入居者の様子を伝えながら意見の引き出しに努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員全員で業務検討会を行い意見を出し合い聴くようにしている。また休憩時などに気づいた点は都度話し合えるようにしている。運営会議の席で理事長・訪看主任を交え意見や提案を出し合い運営に反映させている。 | 月に1回のケアカンファレンスを兼ねた業務検討会を開いており、会議内容は母体医師に報告して連携を図っている。2年前から殆ど入れ変わりのない職員体制が意見を出しやすい環境を作っており、普段から業務改善に向けた意見やケアの見直しについて検討している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員全員の要望や意見を聞き入れ雇用主に伝え、明確な回答をもらっている。仕事への意欲向上の為に努力を頂いている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内での研修や町主催の研修会、介護業務に必要な研修会には積極的に参加できるように体制を作っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム協会熊本支部総会出席、情報交換に努めている。水俣芦北ブロック会に参加交流を深めているが、今年度は新型コロナウイルス発生の為に行われていない。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | サマリーや情報提供書にて事前に本人の思いや不安を全職員が共有し傾聴するようにしている。要望等にも耳を傾けコミュニケーションをとりながら関係作りに努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族との世間話など交え、ゆっくりと話を聞くようにしている。特に不安な事、要望等は時間をかけ関係作りに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ケアマネからの情報を引き継ぎ、本人と家族の要望を理解し全職員で情報を共有している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 個々の能力に応じ簡単な家事を一緒に行っている。また、出来ることはして頂き出来ないことを支援させてもらっている。常に笑顔で接するよう心がけ穏やかに生活して頂けるよう努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時など本人の状態を報告している。疎遠になりつつある時は電話などで連絡、相談報告をしている。利用者様や家族との関わりを多く持ち良い関係を築けるように努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの方など気軽に面会に来て頂ける雰囲気作りに努めている。今年度は新型コロナウイルスの発生により面会は禁止している状態である。 | 被災後の長い避難生活から11月1日にホームでの暮らしが再開し、入居者は久々の元の生活に喜ばれたようである。職員家族の協力により、畑作業も再開し、実った野菜は馴染みの料理に利用されている。入居者の「年賀状の返事を書きたい」との要望に応え、漢字の練習を支えたり、これまでの特技が継続できるようにしている。外出が制限される中、ドライブで見慣れた景色を車中より眺めるなど職員のアイデアが活かされている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者の個性を把握し、気の合う利用者同士で仲良く生活出来るよう支援している。交流が難しい利用者には職員が間に入りコミュニケーションを図っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 介護サマリーや情報提供書にて詳しく伝えるようにしている。町で家族を見かけた時には声をかけ、必要な時には相談に応じ支援に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 担当職員が本人に聞いたり日常の会話の中から本人の思いや意向の把握に努めている。その思いを職員間で共有し話し合いケアに活かしている。時には居室でゆっくり会話する事もある。 | 災害やコロナ感染症を経験したからこそ職員は、これまで以上に入居者に寄り添い、笑顔で話を聞くように努めている。家族の要望は面会や電話で聞き取っており、入居者の意向と合わせ、プランに反映させている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族から話を聞いたり前ケアマネからの情報提供書・介護サマリー等にて経過の把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | バイタルチェックにて毎日の健康状態を把握している。発する言葉の内容や表情の変化は小さな事でも情報を共有している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人や家族の要望を聞きカンファレンスを開催し介護計画をたてている。各担当者にアセスメントを記入してもらい意見を反映しプランを作成している。現状を把握しながら、必ず見直しをするようにしている。 | 入居間もない方の初回プランには、自宅での生活歴や入院先での情報、ホームでの様子などをもとに「出来る事はしながら、元気に暮らしたい」との思いを尊重して立案している。モニタリングで支援実施状況や効果、満足度などを評価しながら今後の方向性を決め、現状に沿った内容としている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子ケアの実践気づきなど個別に介護記録に記入し、職員間で情報を共有しながら気づきや工夫を話し合いケアの実践や見直しに活かしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人や家族の状況に応じ柔軟に対応している。母体が医院である為医療との連携にて病気の早期発見に努め支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 利用者様が安心して暮らしていけるよう運営推進会議には区長、民生委員消防署員参加してもらい意見交換をしている。近隣には避難訓練のお知らせを配り参加をお願いしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 母体の医院がかかりつけ医である。利用者様の状態は常に医師に報告または訪看に相談している。また、状態に応じ専門医の受診も行っている。 | 本人・家族の了承のもと全員が母体医療機関をかかりつけ医とし、現在は感染症への対応から職員が受診を支援している。専門医については、家族に依頼しているが、要望や必要に応じて職員も同行している。主治医や訪問看護とは日頃から連携を図り、異常や気になることがあれば速やかに連絡を行い、受診や指示を受けている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 毎日健康チェックを行い、異常の早期発見に努めている。少しの変化でも医院・訪看に報告し指示を得ている。必要時は受診の支援を行っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 母体がかかりつけ医である為、常に状態報告を行っている。入院時は介護サマリーにて情報を提供している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時に必ずご家族に希望を訪ねている。状態に変化が生じた場合にはかかりつけ医と意向確認をしながら対応している。また入院が必要な場合は必ずご家族に連絡を取り最善策が取れるように心掛けている。 | 入居時にホームの出来る事やできない事を伝え、その時点での意向を確認している。継続した医療支援がなければ、ホームでの終末期支援も可能であるが、医療行為が必要となれば、母体医療機関への転院を希望されている。また、ホームは一般的な浴槽であり、対応が困難になれば転院の目安の一つとしている。入院中は家族の思いを察しながら、可能な限り面会の機会を持っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 法人内で行われている研修会に毎年参加しているが、令和2年度はコロナウイルス感染防止の為に中止となった。今後行われる研修会には積極的に参加していく予定である。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 毎年、火災時の避難訓練を年2回行ってきた。令和2年7月の豪雨災害は未曾有の出来事であった。改めて天災時の避難計画書を見直し訓練を行い利用者の安全を守っていかうと思う。 | 火元やホーム周辺など安全チェック表により毎月や週1回、内容に応じて実施している。今年度は豪雨被害の二日前に火災避難訓練を実施しており、日頃からの意識が対応に繋がっている。 | 豪雨災害を経験し今後はあらためて単独の避難計画を含め、マニュアルの見直しの必要性を語っている。また、備蓄についてはリストを作成し、無駄にならないようにすることや、避難場所に備えておくことが望ましいとしている。今後の取組が期待される。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 全職員が利用者様1人々を理解し言葉かけや対応をしている。入所時ホーム発行の新聞に掲載して良いか否かお尋ねしている。また、業務検討会にて全職員が必ず振り返り注意し合っている。 | 言葉使いが入居者にとって不快なものとなっていないか、特に管理者は語尾に注意するよう伝えている。また、カンファレンスの中で共有を図っている。呼称は苗字や下の名など、反応や家族の希望を聞きながら対応している。身だしなみやおしゃれについては、衣類の購入など家族の協力も得ながら取り組んでいる。着替えを済ませ「おかしくないかしら〜！」と、職員に問われる方もおられるようであり、身だしなみへの関心を持ち続けられるよう必要なサポートに努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常の会話を通じ思いや希望が話しやすいような環境に努めている。食事の様子で好き嫌いを把握している。言葉にて意思表示が出来ない利用者様の排泄など表情や体の動きをキャッチし支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者様1人々のペースに合わせ本人の意向を尋ねながら支援している。レクリエーションの内容やお風呂の順番も尋ね個々に対応し支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご家族に協力を得ながら衣服を揃えて頂き、馴染みの理美容院の利用やホーム内にて本人の意向に沿って散髪支援を行っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者様の能力に応じお手伝いをお願いしているが、現在は難しい状態である。配膳前のテーブル拭きや下膳のお手伝いは可能な方にお手伝いをして頂いている。 | 献立は職員が当日か前日に冷蔵庫内を見ながら決定している。誕生日会では希望のメニューを聞いたり、目先を変えて注文弁当なども取り入れている。三食に汁物をつける事でのど越しも良く、特に昼食には豚汁や団子汁など、具材を多く使用したものを作るようにしている。職員も基本的に同じものを食べており、味や量の確認と思いを共有することで入居者の楽しい食事支援に繋げている。 | エプロンについては、今後も首に負担のない使用方法で食事支援に努めていかれる事を期待したい。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 入所時に食生活を聞きその方に合った食事形態で提供している。水分量は毎日記録している。月に1度体重測定を行い体重の増減や老人健診での採血の結果をみて栄養士に相談しバランスのとれた食事の提供に努めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 起床時、毎食後の口腔ケアを行っている。うがいや理解できない方には口腔清拭シートを使用し清潔を保っている。義歯は夕食後に消毒をおこなっている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表にて排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。利用者様の状態に応じ可能な限りトイレでの排泄を支援している。 | チェック表を活用し、日中はトイレでの排泄を個々に応じて支援している。現在はリハビリパンツを使用の方が殆どであるが、布(失禁対応)パンツで過ごされる方もおられる。トイレは2か所設けられ利用場所が決まっている方もおられる。夜間2名の方がポータブルトイレを使用されており、使い勝手を考慮して設置し、洗浄や消毒をはじめ衛生的に管理している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄パターンを把握し飲食物に繊維質の多いものを提供したり水分摂取の工夫を行っている。排便チェック行っており、長年緩下剤を飲んでおられる方には服薬支援を行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 月曜日から土曜日まで入浴支援を行っている。本人の状態や意向に沿って支援している。羞恥心や負担感等を全職員が理解し都度声かけしながら、ゆっくりと入浴できるよう支援している。 | 基本的に週3回、午後からの入浴を支援している。「最後に入りたい！でも浴室がムンムンしているのは嫌い！」「ぬるま湯で、湯の量もおぼれないくらいがいい！」など、要望を出される方もおられ、換気や湯温を確認しながら支援している。入浴剤は毎日の支援に取り入れており、色や香りを楽しませている。お気に入りのシャンプー類を準備されていた方もおられたが、災害後はこだわりもうすくなれていると管理者は語っている。 | 以前こだわりを持って使用されていたシャンプーなど、今後機会があれば家族の協力を得ながら、再度支援されてみるのも良いと思われる。 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 1人々の要望や状況に応じて対応している。日中は活動や日光浴などを促し安眠できるような支援をしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個々の処方箋を名前ごとに綴じ、全職員が把握できるように支援している。状態の経過や変化を訪看やかかりつけ医に報告している。1人々の薬箱に保管し飲み忘れや誤薬の防止に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 家事において手伝ってもらえる所はお願いしている。字の練習をされる時には筆記道具の提供を行っている。季節の行事や誕生日会は全員参加で行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 以前は電気治療に母体の医院に出かけていたが、災害後はコロナの影響もありまだ再開していない。今の状況が落ち着けば外出支援を再開したい。 | 今年度は感染症に加え水害により母体医療機関での生活を余儀なくされ、外出支援が殆どできず、ホーム改修後に庭先での外気浴などが主な取組となっている。車に乗る事が楽しみな入居者もおられ、感染症が落ち着けば、母体医院へドライブを兼ねた電気治療をはじめ、以前のような外出支援に努めたいとしている。 | 感染症の状況を見ながら、出来る限りの外出支援に取り組まれることを期待したい。また、面会が可能になれば、先ずは庭先の散歩など家族と一緒にゆっくり外気に触れる機会を支援いただきたい。 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在の利用者様は現金を自分で所持されている方はおられない。預り金の説明は入所時に必ず行い本人と家族と相談合意を得て管理している。面会時には預かりノートにて使徒と残金を確認して頂きサインをもらっている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望にていつでも電話を使用できる様支援している。手紙やハガキが届いたら、本人にお渡しし家族にもお伝えしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用の空間は毎日掃除を行い、換気にも努めている。玄関先には季節の花を植え壁には季節に合った物を利用者様と製作し装飾している。室温湿度は温度計湿度計を確認して調節を行っている。 | ホーム玄関や裏庭には季節の花が開花している。また、菜園は職員や職員の家族も協力しながら野菜が育てられ、入居者も管理や収穫の出番が設けられている。改修されたホーム内はこれまで以上に明るい雰囲気になっており、入居者と一緒に作成した壁面を掲示している。席の配置は相性なども考慮して、それぞれが過ごしやすいように支援している。感染症への対応から特に換気や消毒、掃除の徹底を心掛けている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 好きな場所に座って頂いている。ソファの席や食堂の席は気の合う方を隣同士に配置している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 思い出の品や以前使用されていた物等は持ってきて頂いている。災害にて失くした物もあり居室の環境作りも徐々に行っていこうと思う。 | 必要な衣類やタオルなど馴染みの品を準備して欲しい旨を伝えている。開設当初に比べると大きな家具類は少なく、以前持ち込まれていた品は水害により流され、1から環境整備に努めており、タンスはホームで準備している。足にむくみある方には、食後自室でやすんでもらったり、1日おきに頭の向きを変える事で褥瘡予防に繋げる等、個々に応じて就寝以外の居室での過ごし方を検討している。水害後改装された居室は、掃き出し窓でスムーズな避難ができ、家族との窓越し面会も開放的に行なわれている。 | 家族の訪問も控えられており、安心して繋がるよう不足品の連絡に加え、居室内の様子なども伝えていかれる事を期待したい。 |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | バリアフリーにて安心して歩行できるようにしている。居室内の配置も1人々の身体機能や状態に合わせて行っている。 | | |